



一般社団法人

# 日本女性科学者の会 例会シンポジウム 2021

日時: 2021年9月26日(日) 15:30-16:30

公開オンライン開催 (Zoom事前登録制, 下記QRコードより)

## パネルディスカッション 女性科学者への期待 女性科学者はなぜ増えないか

### パネリスト



林 伴子氏・内閣府  
男女共同参画局長



松尾 泰樹氏・内閣府  
科学技術・イノベー  
ション推進事務局長



塩満 典子氏・文科省  
科学技術・学術政策  
研究所上席フェロー



マチ デイルワース氏  
SJWS会員



跡見 順子氏  
SJWS会長  
東京農工大学客  
員教授・東京大  
学名誉教授



大倉 多美子氏  
SJWS監事、  
SJWS元会長  
元慶應義塾大学  
医学部

### Unconscious biasの解消とジェンダード・イノベーション

「第2次男女共同参画基本計画」(2005年12月閣議決定)に「社会のあらゆる分野において、2020年までに指導的地位に女性が占める割合「2020年30%」目標が盛り込まれ、官民においてその実現に向けた取組が進められてきました。しかし「第5次男女共同参画基本計画～すべての女性が輝く令和の社会へ～」(2020年12月閣議決定)において提示されたとおり、女性研究者割合は16.9%(2020年3月末現在)であり、国際的に見ても男女共同参画の歩みは遅々としています。

「第6期科学技術・イノベーション基本計画」(2021年3月閣議決定)で重要性が指摘される「総合知」の視点に立って、本シンポジウムではアンコンシャス・バイアスの払拭とジェンダード・イノベーションに取り組む意義をあらためて共有し、大学、研究機関、学術団体等の協力の下、理工系選択のメリットに関する意識啓発、女子の理工系進路選択支援、女性研究者の活躍促進等についての方策をそれぞれの立場で考える契機とすべく、また有効な施策をさらに推進いただくためのディスカッションを行います。

主催: 日本女性科学者の会(SJWS) 共催: 国立大学法人お茶の水女子大学  
後援: 内閣府男女共同参画局 文部科学省 日本学術会議 (一社)男女共同参画学協会連絡会  
企画: SJWS東北ブロック理事(梅津理恵 山田恵子 本間美和子)



# Unconscious biasによるバリアー解消とジェンダード・イノベーション

「第2次男女共同参画基本計画」（2005年12月閣議決定）に「社会のあらゆる分野において、2020年までに指導的地位に女性が占める割合「2020年30%」目標が盛り込まれ、官民においてその実現に向けた取組が進められてきました。

しかし「第5次男女共同参画基本計画～すべての女性が輝く令和の社会へ～」（2020年12月閣議決定）で提示されたとおり、女性研究者割合は16.9%（2020年3月末現在）であり、国際的に見ても男女共同参画の歩みは遅々としています。

「第6期科学技術・イノベーション基本計画」（2021年3月閣議決定）で重要性が指摘される「総合知」の視点に立って、本シンポジウムではアンコンシャス・バイアスがもたらすバリアーの払拭とジェンダード・イノベーションに取り組む意義をあらためて共有します。

大学、研究機関、学術団体等の協力の下、理工系選択のメリットに関する意識啓発、女子の理工系進路選択支援、女性研究者の活躍促進、等についての方策をそれぞれの立場で考える契機とすべく、また有効な施策をさらに推進いただくためのディスカッションを行います。

- ①なぜ女性科学者は増えないか
- ②どのように変化を促していくのか  
(それぞれのお立場で)

## 提言

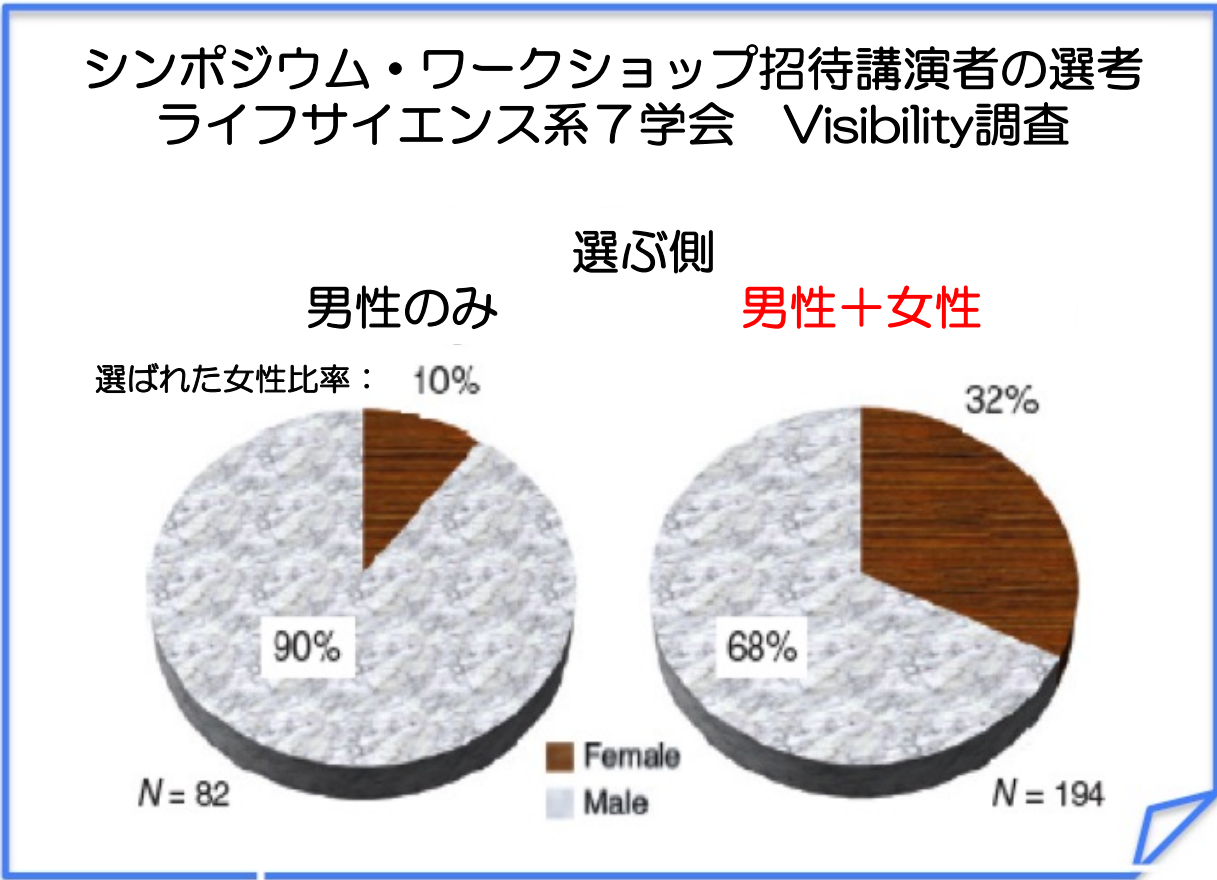
# 人生100年時代、女性も男性も十分に能力発揮できる研究環境の実現 ～無意識のバイアスから自由に

### 6つの骨子

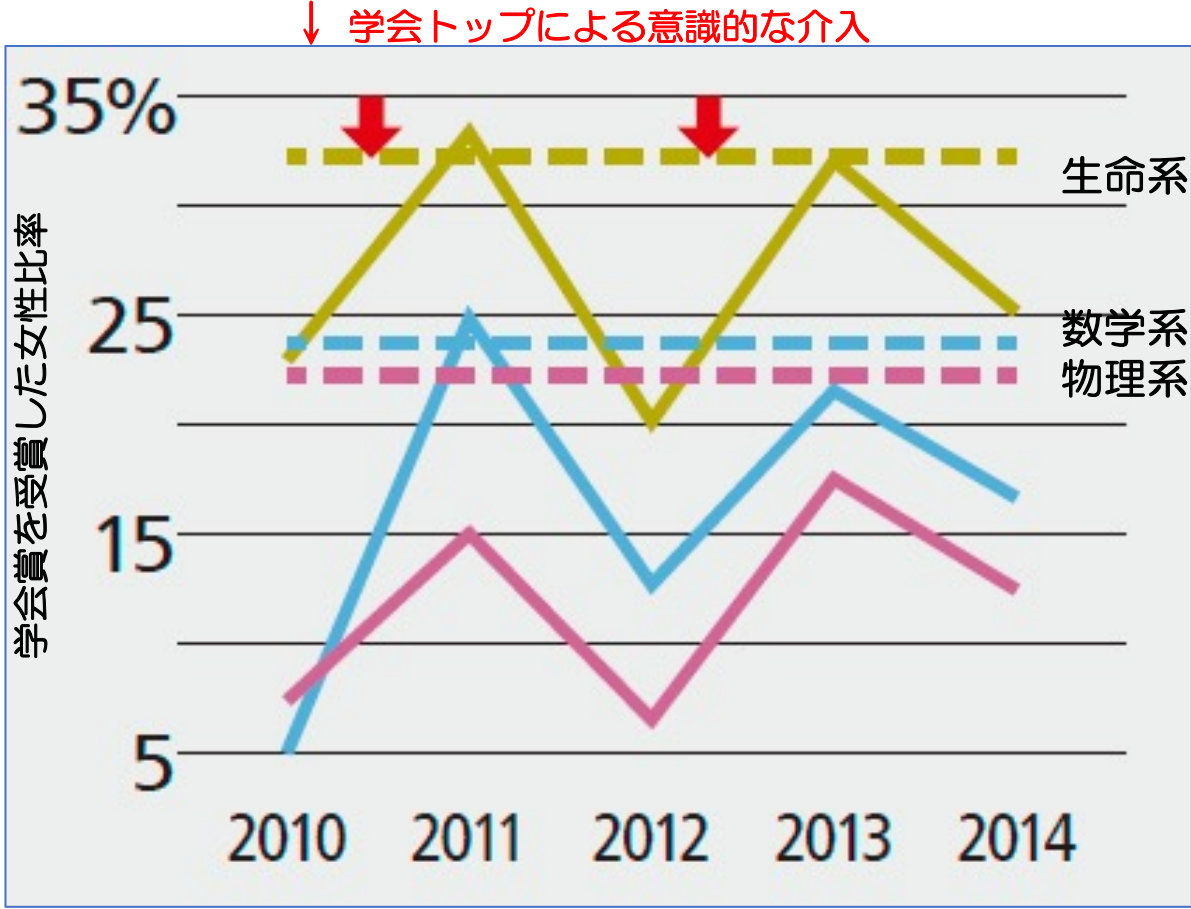
1. 無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）がもたらすバリアーの解消に向けた取組の推進
2. 科研費審査区分の見直しによる「総合知」や「ジェンダード・イノベーション」等の新しい学術領域の振興
3. 人生100年時代・ライフスタイルの多様化に対応した年齢制限の見直し
4. ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ等のフォローアップ
5. 任期付きポジションにある教員等の産休・育休・介護休暇による任期延長に付随する問題解決に向けたポジティブ・アクション
6. 新型コロナウイルス影響下における研究活動停滞回避に向けた緊急調査

# 無意識のバイアスがもたらす障害

# バリアー解消へは持続的努力が必要

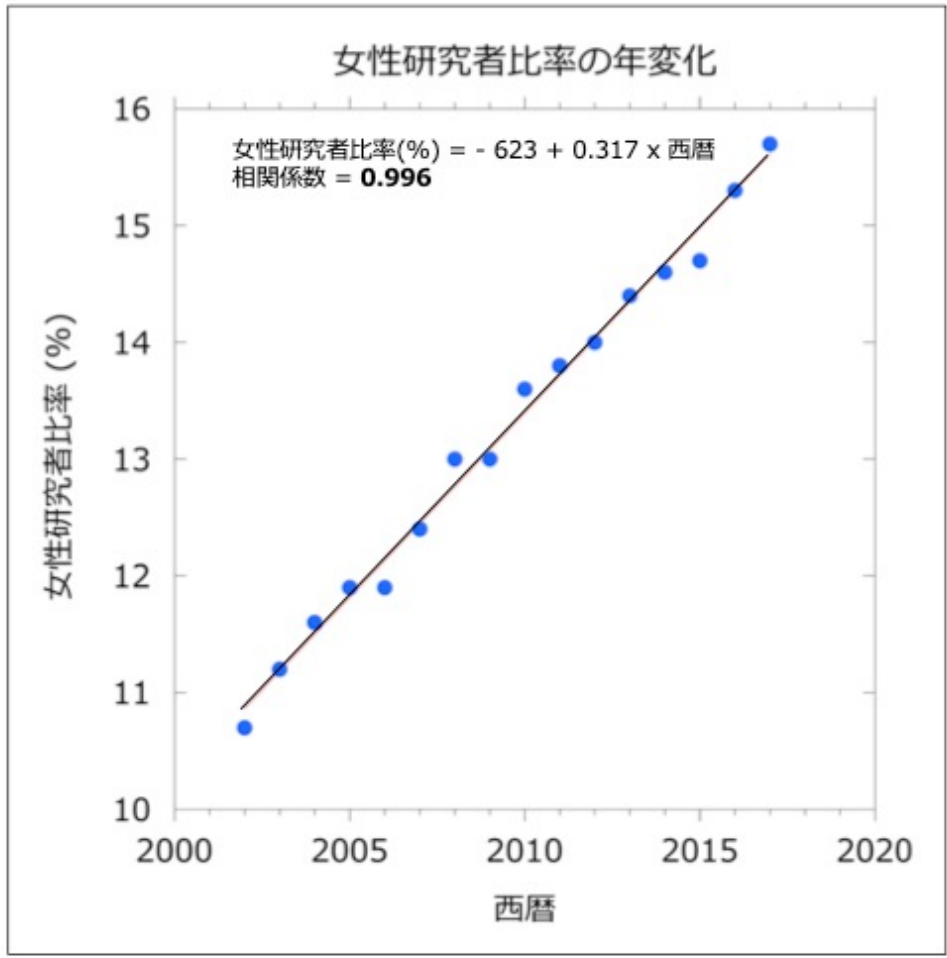


Homma MK., Motohashi R. and Ohtsubo H.  
*Genes to Cells* 18(07): 529-532 (2013)



Association for Women in Science AWARDS Series  
(www.awis.org)

# 各機関における男女共同参画推進のために…公約・実施・評価



この線の延長で増加すると仮定すると、女性研究者比率が30%に到達するのは2060年になることが予想される。

より強力で循環的に向上する施策が必要である。

- 働く環境の整備等支援体制の強化
- 無意識の偏見の自覚と克服等の意識改革
- 男女共同参画への取り組みを機関評価に取り入れる

↓ 海外を含めた好事例を参照してみる

(出典：中村淑子「評価指標の統合リスト」を一部改編)

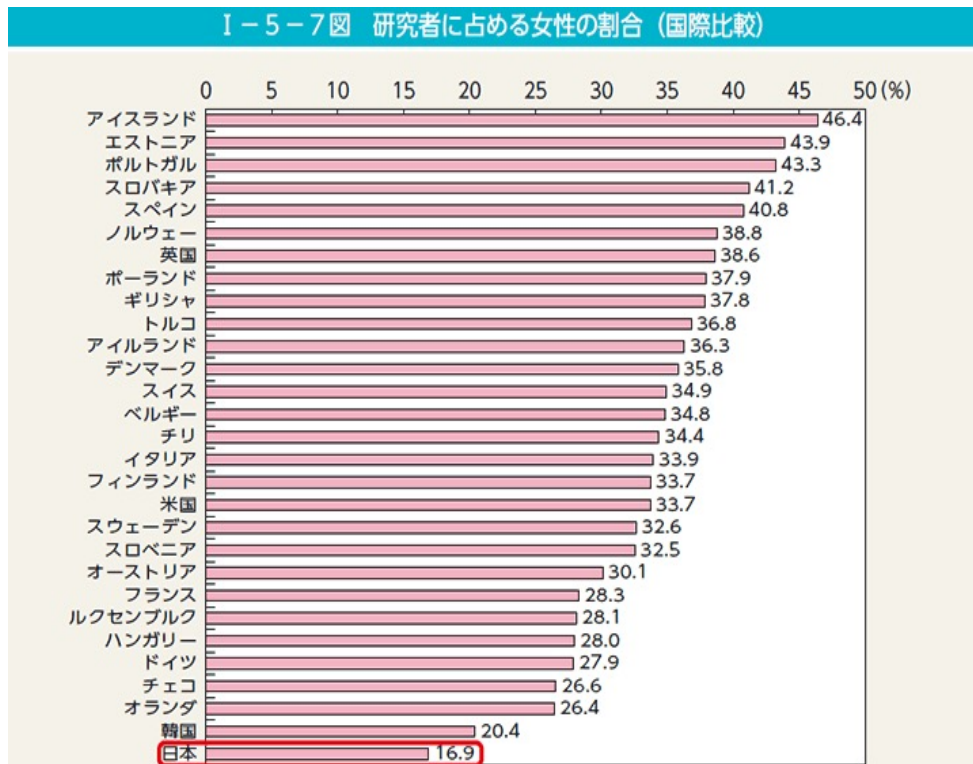
アクションプランによる目的・目標の明確化			
■			賃金格差・男女比率におけるジェンダー間の不平等を改善するための、データ解析に基づいた目標の明確化
■	■	■	ジェンダーバランスを改善するための目標の明確化
■	■		目標達成に向けたアクションプラン
			外部評価委員会の設置
	■	■	内部・外部評価の統合
			女性研究者を支援する組織の設置
■		■	自己評価チームのメンバー詳細、自己評価プロセスと将来計画の記述
■			機関別の、測定可能で達成可能な、(ジェンダー)関連性の高い、スケジュール感のある行動計画

ECU gSET NSF Ocha

女性研究者比率の年変化。  
総務省「科学技術研究調査」統計トピックス No.100 (H29.4.14)のデータを利用して作画。

出典：藤井良一「学術の動向」2018.12, P.32

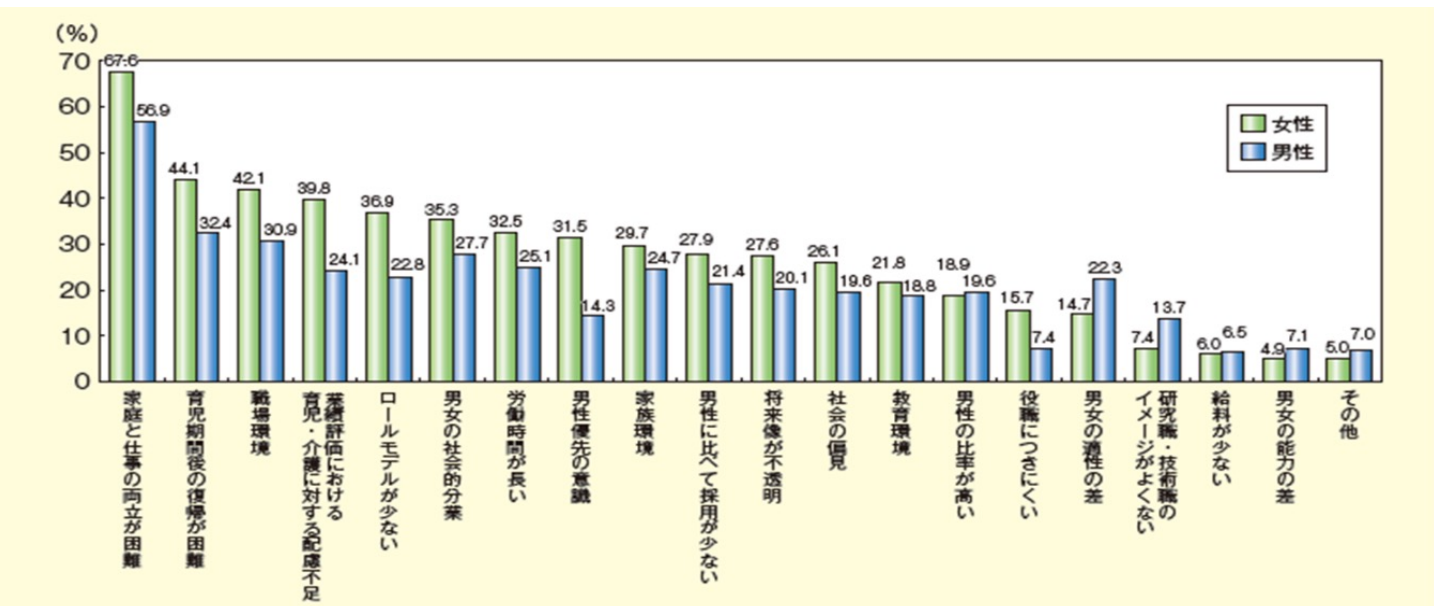
図1 研究者に占める女性割合（国際比較）  
（令和3年版男女共同参画白書）



（備考）1. 総務省「科学技術研究調査」（令和2年）、OECD“Main Science and Technology Indicators”，米国国立科学財団（National Science Foundation：NSF）“Science and Engineering Indicators”より作成。  
2. 日本の数値は、令和2（2020）年3月31日現在の値。アイスランド、ギリシャ、アイルランド、デンマーク、スイス、ベルギー、米国、スウェーデン、オーストリア、フランス、ルクセンブルク、ドイツ及びオランダは平成29（2017）年値、その他の国は、平成30（2018）年値。推定値及び暫定値を含む。  
3. 米国の数値は、雇用されている科学者（Scientists）における女性の割合（人文科学の一部及び社会科学を含む）、技術者（Engineers）を含んだ場合、全体に占める女性科学者・技術者の割合は29.0%。

（出典）内閣府男女共同参画局ホームページ  
[https://www.gender.go.jp/about\\_danjo/whitepaper/r03/zentai/html/zuhyo/zuhyo01-05-07.html](https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r03/zentai/html/zuhyo/zuhyo01-05-07.html)

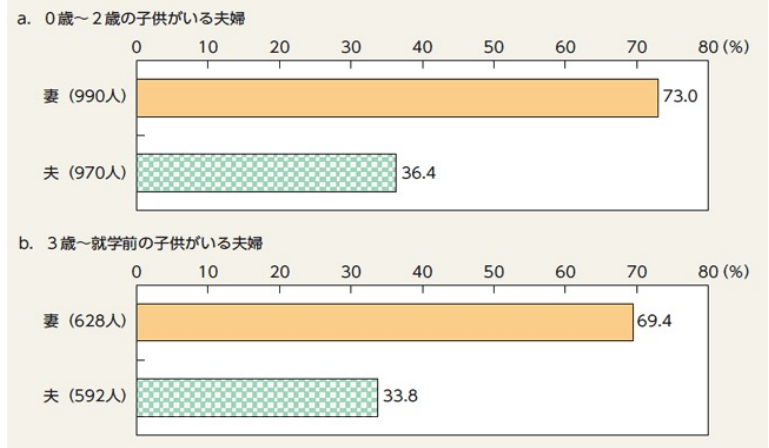
図2 女性研究者が少ない理由（男女別）（平成26年版男女共同参画白書）



（備考）男女共同参画学協会連絡会「第3回科学技術系専門職の男女共同参画実態調査」（平成25年）より作成。

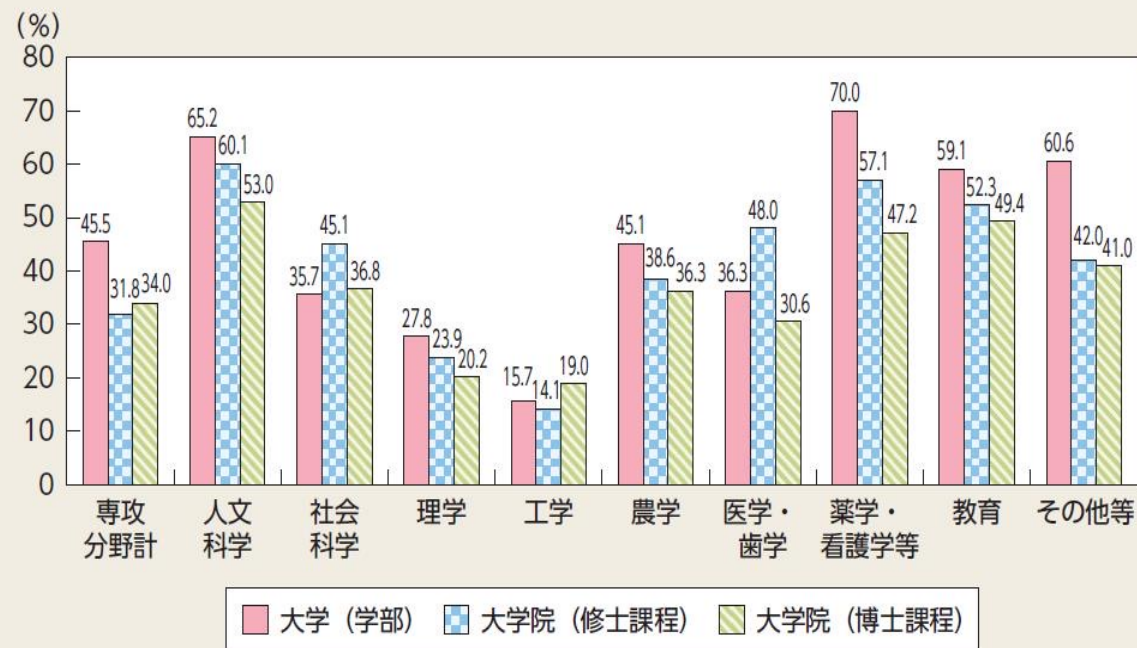
（出典）内閣府男女共同参画局ホームページ  
[https://www.gender.go.jp/about\\_danjo/whitepaper/h26/zentai/html/zuhyo/zuhyo01-05-10.html](https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/h26/zentai/html/zuhyo/zuhyo01-05-10.html)

図3 育児の分担割合（妻・夫）（令和2年版男女共同参画白書）



（出典）内閣府男女共同参画局ホームページ  
[https://www.gender.go.jp/about\\_danjo/whitepaper/r02/zentai/html/zuhyo/zuhyo01-00-19.html](https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r02/zentai/html/zuhyo/zuhyo01-00-19.html)

図4 大学(学部)及び大学院(修士課程)学生に占める女子学生の割合(専攻分野別、令和2(2020)年度) (令和3年版男女共同参画白書)



- (備考) 1. 文部科学省「学校基本統計」(令和2年度)より作成。  
 2. その他等は、大学(学部)及び大学院(修士課程)は、「商船」、「家政」、「芸術」及び「その他」の合計。大学院(博士課程)は、商船の学生がいないため、「家政」、「芸術」及び「その他」の合計。大学院(博士課程)は、商船の学生がいないため、「家政」、「芸術」及び「その他」の合計。  
 3. 大学(学部)の「薬学・看護学等」の数値は、「薬学」、「看護学」、「その他」の合計。大学院(修士課程、博士課程)の「薬学・看護学等」の数値は、「薬学」、「その他」の合計。

(出典) 内閣府男女共同参画局ホームページ  
[https://www.gender.go.jp/about\\_danjo/whitepaper/r03/zentai/html/zuhyo/zuhyo01-05-03.html](https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r03/zentai/html/zuhyo/zuhyo01-05-03.html)

表1 新規採用者に占める女性研究者(教員)の割合「第5期科学技術基本計画レビュー」(内閣府2020年6月版)

データ名	参考値		最新値		目標値
採用教員に占める女性教員の割合/新規採用者に占める女性研究者割合	大学等 2014年	研究開発法人 2015年度	大学等 2016年	研究開発法人 2018年度	2020年度
自然科学系(部門)	(28.1%)	(29.6%)	27.5%	26.3%	30%
理学	(15.2%)	(27.2%)	17.5%	<b>24.8%</b>	20%
工学	(11.6%)	(19.0%)	10.1%	<b>17.8%</b>	15%
農学	(20.3%)	(30.6%)	25.7%	<b>35.2%</b>	30%
保健(医学・歯学・薬学)	(34.2%)	(50.8%)	<b>33.1%</b>	27.1%	30%

- 注1) 下線太字は、最新値が目標値に到達していることを示す。  
 注2) 大学等・分野別は、大学が採用した教員(非常勤教員を除く)のうち、教授、准教授、講師、助教について集計。  
 注3) 研究開発法人は、常勤(任期付、非任期付)及び非常勤の女性研究者の合計値。  
 注4) 参考値は取得されたデータの制限により、大学等は2014年、研究開発法人は2015年度を記載。

大学等  
 注) 大学が採用した教員(非常勤教員を除く)のうち、教授、准教授、講師、助教について集計。  
 (出典) 文部科学省調査データを基に作成。

研究開発法人  
 注) 常勤(任期付、非任期付)及び非常勤の女性研究者の合計値。  
 (出典) 内閣府「研究開発機能に関する調査」を基に作成。

(出典) 内閣府ホームページ  
<https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/kihon6/6kai/sanko3-1.pdf>



# 令和3年度 文部科学省 科学技術人材育成費補助事業

## ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ

令和3年度予算額 1,026百万円  
(前年度予算額 1,014百万円)



**背景・課題**

- 人口減少局面にある我が国において、研究者コミュニティの持続可能性を確保するとともに、多様な視点や優れた発想を取り入れ科学技術イノベーションを活性化していくためには、**女性研究者の活躍促進が重要**であるが、女性研究者割合を諸外国と比較すると依然として低い水準にあり、特に上位職に占める女性研究者の割合が低い状況。
- そのため、女性研究者が**出産、育児等のライフイベントにかかわらず研究を継続できる環境の整備**や、女性研究者の研究力向上を通じた**上位職登用の促進**が必要。

【統合イノベーション戦略2020 2020年7月17日 閣議決定】抜粋  
○女性研究者の研究環境整備や研究力向上に取り組む機関の連携を図る全国ネットワークの構築や、博士後期課程へ進学する女子学生への支援の充実、海外事例の調査分析等を踏まえた女性研究者の支援方針の検討を行う。

**事業概要**

**事業の目的・目標**

- **研究と出産・育児等のライフイベントとの両立や女性研究者の研究力向上を通じたリーダーの育成**を一体的に推進する**ダイバーシティ実現**に向けた大学等の取組を支援する

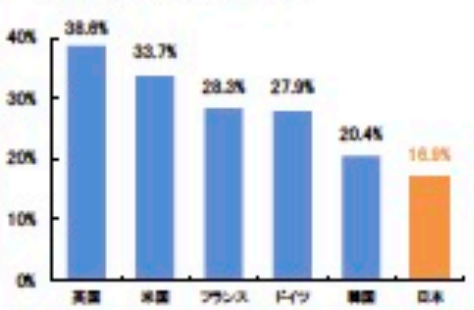
**ダイバーシティ実現に向けた取組の支援**

- **対象機関**：大学、国立研究開発法人等
- **事業期間**：6年間（うち補助期間3年間）
- **支援取組**：
  - ①牽引型 複数の機関が連携し、地域や分野における女性研究者の活躍を牽引する取組
  - ②先端型 女性研究者の海外派遣等を通じた上位職登用の一層の推進等の取組
  - ③特性対応型 分野や機関の研究特性や課題等に対応し、研究効率の向上を図りつつ、女性研究者の活躍を促進する取組  
※博士後期課程学生の処遇の向上に資するフェローシップの取組を含む。
  - ④全国ネットワーク中核機関（群） 国内外の取組動向の調査や経験、知見の全国的な普及・展開を図るための全国ネットワークの構築を目指す取組
- **支援金額**：40百万円程度/年・件〔23件程度（うち新規5件程度）〕

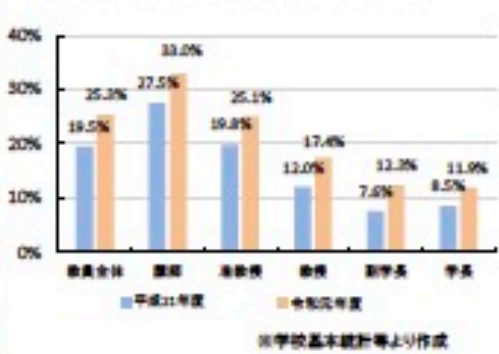
**調査分析等の実施**

- **対象機関**：大学、国立研究開発法人等
- **事業期間**：2年間
- **支援取組**：女性研究者の活躍促進に資する海外の優れた取組に関する調査分析
- **支援金額**：25百万円程度/年・件〔3件程度（うち新規2件程度）〕

■女性研究者割合の国際比較



■大学における職位別の女性教員の在籍割合



内閣府男女共同参画局 男女共同参画白書

[https://www.gender.go.jp/about\\_danjo/whitepaper/index.html](https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/index.html)

一般社団法人 男女共同参画学協会連絡会

<https://djrenrakukai.org>

科学分野の学会、学術団体から構成される組織。およそ2万人を母体とする男女共同参画についての実態調査(大規模アンケート調査)を4年に1度行っている。

一般社団法人 男女共同参画学協会連絡会 大規模アンケート

<https://djrenrakukai.org/enquete.html#eng>

これらは内閣府白書へ掲載されるなど我が国の大学や研究機関における男女共同参画の実情を反映するデータ集となっている。

一般社団法人 男女共同参画学協会連絡会 無意識のバイアス リーフレット, オンデマンド動画レクチャー

[https://djrenrakukai.org/doc\\_pdf/2019/UnconsciousBias\\_leaflet.pdf](https://djrenrakukai.org/doc_pdf/2019/UnconsciousBias_leaflet.pdf)

[https://www.djrenrakukai.org/unconsciousbias/see\\_bias\\_block\\_bias/index.html](https://www.djrenrakukai.org/unconsciousbias/see_bias_block_bias/index.html)

情報・システム研究機構 男女共同参画推進室「評価指標の統合リスト」, 「成果報告書」

[https://danjo.rois.ac.jp/blogs/blog\\_entries/view/34/ddcaad7906e1b01264c7fdfe1a1ab39a?page\\_id=11](https://danjo.rois.ac.jp/blogs/blog_entries/view/34/ddcaad7906e1b01264c7fdfe1a1ab39a?page_id=11)

<https://danjo.rois.ac.jp/surveyanalysis/resultsreport>

一般社団法人 日本女性科学者の会

<http://www.sjws.info/history/index.html>

63年前に湯川秀樹博士、平塚らいちょうらによって組織された。現在は、理学、工学、医学、薬学、農学、情報学、等を専門とする大学または学会へ所属する女性研究者250名の会員を擁する。

# 本日の例会参加登録者の概況

